

議会だより

笑顔あふれる町づくりを目指し！



新町議会の体制決まる **第1回臨時会** ページ
議長に小田議員を選出 **2**

企業誘致を通じ、若者の定住化を(9月定例会)・・・ **6**

常任委員会レポート・・・・・・・・・・ **8**

町政を問う！いっぱん質問・・・・・・・・ **10**

議員の町内巡回視察研修・・・・・・・・ **20**

とぎ保育園クッキング教室

10月29日に年長組の保育参観でクッキングを行い、お家の人たちに自分たちの作る姿を見てもらいました。

材料は、その4日前に「ますほ保育園の年長組」と一緒に収穫したサツマイモです。

子供たちは収穫と料理ができた喜びでいっぱいでした。

新町議会の体制決まる

第1回 臨時会 (9月5日)

旧町の垣根を払い、 活力ある町づくりに努力



桜井副議長（左）と小田議長（右）

議長に こた 小田 芳治 議員

副議長に 桜井 俊一 議員

9月5日に新町合併後、初めての議会となる臨時会が開かれ、議長・副議長の選出、※常任委員・議会運営委員の選任、特別委員会の設置・選任などが行なわれました。また、議長・副議長の選出は、指名推薦によって行われ、議長には小田芳治議員が、副議長には桜井俊一議員がそれぞれ当選しました。

(※常任委員会とは、多数の議案等を能率的かつ、専門的に処理するための委員会です、それぞれの部門の調査、議案・請願等の審査を行います。各委員会の委員は10人づつとし、その所属委員は3ページに紹介してあります。)

副議長の要職歴

平成15年11月から平成17年8月までの旧志賀町議会教育民生常任委員長職をはじめ、議会運営副委員長、決算特別委員長等を歴任。旧町3期。

議長の要職歴

平成13年6月から平成15年4月までの旧富来町議会副議長職をはじめ、産業建設常任委員長、決算特別委員長等を歴任。旧町3期。



委員

福田 英雄
旧町1期(61歳)



委員

越後 敏明
旧町1期(57歳)



委員

須磨 隆正
旧町1期(54歳)



副委員長

堂下 健一
旧町2期(51歳)



委員長

松島 信夫
旧町2期(65歳)



委員

吉島 陸男
旧町7期(68歳)



委員

木村 正男
旧町6期(57歳)



委員

久木 拓栄
旧町4期(55歳)



委員

小田 芳治
旧町3期(57歳)



委員

林 一夫
旧町3期(56歳)



委員

田中 正文
旧町1期(58歳)



委員

橘 照茂
旧町1期(46歳)



委員

南 政夫
旧町1期(41歳)



副委員長

富沢 軒康
旧町2期(49歳)



委員長

松浦 恒義
旧町3期(59歳)



委員

竹内 利長
旧町8期(75歳)



委員

泉 貢
旧町6期(71歳)



委員

南 正弘
旧町5期(71歳)



委員

中林 俊雄
旧町4期(67歳)



委員

桜井 俊一
旧町3期(50歳)



委員

大根 明
旧町3期(72歳)



委員

萬上 俊之
旧町3期(50歳)



委員

寺岡真貴子
旧町2期(29歳)



副委員長

下池外巳造
旧町1期(52歳)



委員長

角花 進
旧町9期(71歳)



委員

長谷川勝朗
旧町8期(72歳)



委員

稲村 幸雄
旧町7期(57歳)



委員

山本 辰栄
旧町6期(65歳)



委員

辻 武美
旧町4期(63歳)



委員

戸坂忠寸計
旧町3期(48歳)

総務 常任委員会
総務課、富来支所、
企画財政課、監理課

税務課、会計課、選挙管
理委員会、監査委員の所
管関係及び、他の委員会
の所管にしないこと。

教育民生

常任委員会

住民課、子育て支援課、
健康福祉課、生活安全課、
富来病院、学校教育課、
生涯学習課の所管関係。

産業建設

常任委員会

商工観光課、農林水産
課、建設課、上下水道課、
農業委員会の所管関係。

議会運営委員会

議会の日程、議案・陳情等の取り扱いなど、議会の運営や議長の諮問に関すること。

委員長 辻 武美

副委員長 木村 正男

委員 大根 明

委員 中林 俊雄

委員 南 正弘

委員 稲村 幸雄

委員 竹内 利長

委員 角花 進

特別委員会

常任委員会とは異なり、特定の事件の審査や調査を行うもので、必要と認めるときに議決によって設置します。

原子力発電所対策

原子力発電所の安全対策、防災計画等の調査

委員長 稲村 幸雄

副委員長 竹内 利長

委員 下池外巳造

委員 富沢 軒康

委員 松島 信夫

委員 林 一夫

委員 松浦 恒義

委員 大根 明

委員 小田 芳治

委員 辻 武美

委員 久木 拓栄

委員 南 正弘

委員 木村 正男

委員 吉島 陸男

委員 角花 進

生活環境等対策

生活雑排水、廃棄物処分等の生活環境、下水道事業推進の調査

委員長 山本 辰栄

副委員長 田中 正文

委員 南 政夫

委員 橘 照茂

委員 須磨 隆正

委員 越後 敏明

委員 福田 英雄

委員 寺岡真貴子

委員 堂下 健一

委員 桜井 俊一

委員 萬上 俊之

委員 戸坂忠寸計

委員 中林 俊雄

委員 泉 貢

委員 長谷川勝朗

議会広報

議会広報の発行に関する調査及び編集

委員長 寺岡真貴子

副委員長 南 政夫

委員 橘 照茂

委員 下池外巳造

委員 富沢 軒康

委員 堂下 健一

委員 松島 信夫

議員提出

■議会の委員会条例

委員会の名称、委員定数及び所管等を明記したものを。

■議会事務局設置条例

議会事務局を設置することを明記したものを。

■議会の表彰条例

議員の表彰対象者を明記したものを。

■議会の会議規則

議会の本会議における各種の決め事を明記したものを。

■暫定予算（11会計）
17年度各会計暫定予算は、第1回定例会で新町予算として、議決したので説明は省略します。

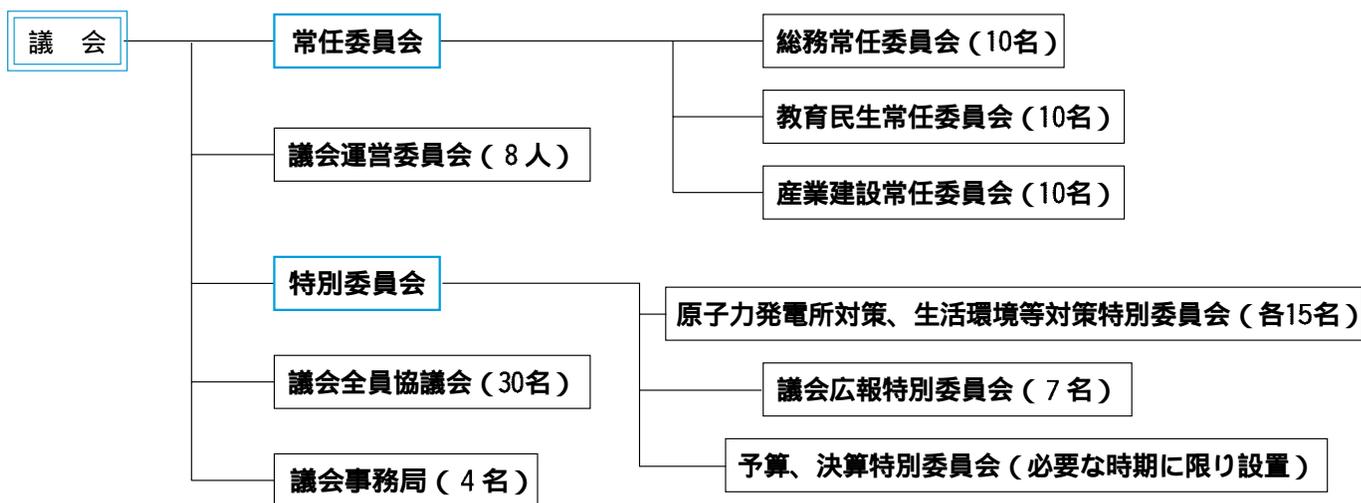
■字等の名称変更
富来地頭町、西海風戸など新町発足に伴い、旧町の字等を変更するもの。

■条例（203の条例制定）
志賀町役場位置条例など旧両町で既に制定されている条例を調整し、さらに合併協議会で決定された事項を反映したものを。

■指定金融機関の指定
（株）北國銀行を町指定金融機関に指定したものを。

議会機構

議会の機構は下図のようになっており、様々な委員会等でそれぞれの部門の調査や審査を行っています。



農業委員の議会推薦

新町発足に伴い、新たな農業委員の議会推薦が行われました。
議会から推薦する農業委員は4人とし、下記写真の方を推薦しました。



平澤 勇氏(高浜町)



濱田壽幸氏(上野)



泉 貢氏(豊後名)



竹内利長氏(大福寺)

選挙管理委員を選挙

新町発足に伴い、新たな選挙管理委員及び同補充員を選出するための選挙が行われました。
選挙は、議長による指名推薦で行われ、選挙管理委員には下記写真の方が当選し、補充員には次の方が当選しました。



谷内 務氏(大島)



櫻井重藏氏(梨谷小山)



喜佐俊信氏(尊保)



寺井 功氏(富来領家町)

企業誘致を通じ、若者の定住化を

新町第1回目となる10月定例会では、先の新志賀町町長選挙において、無投票当選された細川義雄氏が新町初代町長となり、町長の所信表明をした後、平成17年度各会計予算など、議案14件、同意10件（19ページ参照）を審議し、それぞれ全会一致で可決・同意しました。

町長の所信表明



細川義雄町長

合併新町として、能登金剛をはじめとした風光明媚な景勝地と志賀の郷リゾート開発を結合させた観光施策の展開、町民同士の交流を促進する町内幹線道路網の整備、快適な生活空間を目指した下水道整備、情報の共有化を図るためのケーブルテレビ網の整備、少子化の進行に伴う小学校や保育園の再編問題、若者定住化を促進するための住宅政策や企業誘致、益々

厳しさを増す地方財政に対応しながら、地域間競争に勝ち抜くための足腰の強い行財政基盤の確立などの多くの課題に粉骨砕身、積極的に取り組み、魅力的で活力ある能登の拠点都市づくりを目指していきたい。

また、志賀町総合計画を作成するため、町政懇談会や各界各層からの意見聴取等を幅広く実施し、町の将来像が具体的にわかり、「暮らし続けたい、住んでみたい」と思えるよう当町の人口規模に相応しい「総合計画」になるように肉付けをし、危機意識と改革意欲を持ち、積極的に行政改革に取り組むたい。

志賀原発は1号機が現在、順調に運転中であるが2号機建設工事も、工程どおり順調に最終段階を迎え、来年の3月の営業運転に向けた定格電気出力100%段階の試運転を実施中であり、町民が安心できるように万全の体制で慢心せず、細心の注意を持って、運転管理をするよう指導したい。



志賀町議会の議場（議員側）

- サンケンオプトプロダクツ(株)の概要
- *立地場所：梨谷小山地内
- *建物延床面積：8千900㎡
- *工場着工：17年10月
- *操業開始：18年5月
- *従業員数：240名
- *生産品目：冷陰極蛍光管（一般的な蛍光灯に比べ、小型化しやすく長寿命であり、主に液晶ディスプレイのバックライトに用いられる）

17年度予算

17年9月から18年3月までの左記17年度各種予算案を可決しました。

- * 一般会計 120億300万円
- * 国民健康保険会計 15億9千197万円
- * 老人保健会計 19億6千31万円
- * 農業集落排水会計 5億9千128万円
- * 公共下水道会計 11億8千674万円
- * 地域し尿処理会計 1億6千948万円
- * 介護保険会計 15億6千461万円



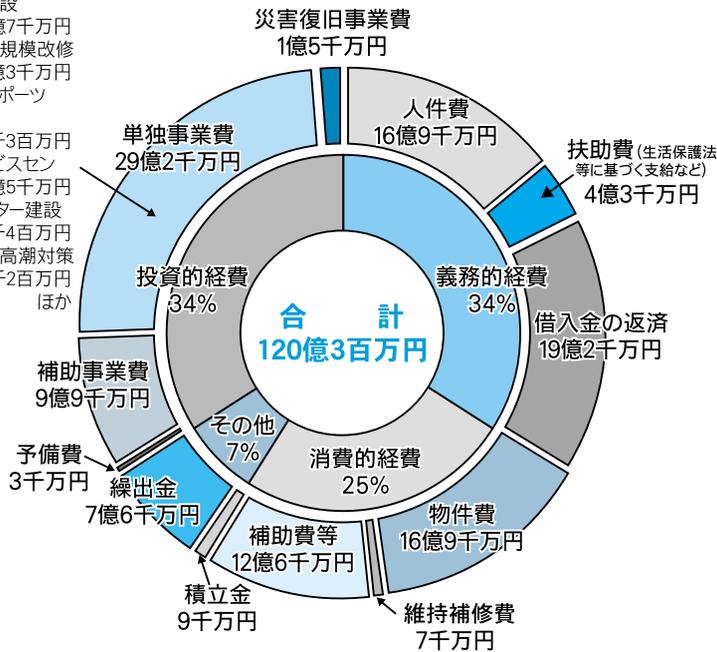
統合中学校建設工事（現高浜中のグラウンドに建設中）

一般会計 **120億3百万円**

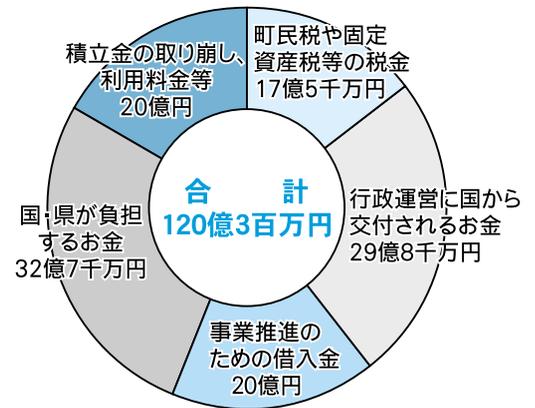
一般会計歳出予算

主な投資的事業

- ・統合中学校建設 19億7千万円
- ・総合体育館大規模改修 2億3千万円
- ・多目的屋内スポーツセンター整備 9千3百万円
- ・老人デイサービスセンター整備 1億5千万円
- ・稗造研修センター建設 2千4百万円
- ・赤崎漁港海岸高潮対策 3千2百万円ほか



一般会計歳入予算



高潮対策を行う赤崎漁港海岸



総合体育館大規模改修（志賀の郷丘陵地）



完成した稗造研修センター（鶴野屋地内）



新たに認定した道路（代田地内）

町道認定



同センター建設地（志賀の郷丘陵地）

契約変更

◇多目的スポーツセンター建設工事
 基礎部の支持力が不足する個所が判明したため、土壌改良の増工に144万円を増額し、契約金額を1億770万円に変更。
 大和ハウス工業(株)。



香能の丘「志賀町とき実験農場」でりんご狩りの体験をする子供たち

総務

議会の3つの常任委員会では、付託された議案等の審査や所管する事項の諸問題について調査を行っています。主な審議内容等を報告します。

とき実験農場を 多くの子供たちに体験させよ

問 実験農場の収支決算はどのようになってい

るのか。

答 生産物の売払い収入があるものの、16年度の決算額は400万円程度の赤字状態である。

提案 生産物の売払い収入を増やすなど、赤字幅を少しでも減少させるようにしなければならぬ。いのちももちろんであるが、町内の多くの小学生等に見学や体験をさせ、幅広い子供たちに農業と食糧の恵み、そして、情操教育の一環からもより有効に施設を活用できるような対策をしてもらいたい。

教育民生

学校の統合計画と併せ、 スクールバスの長期計画もせよ



スクールバスで富来小学校に通う児童たち

問 スクールバス運行は、旧志賀町地区では高浜小だけの1台であるが、旧富来町地区では小・中学校で4台とのことであり、今後は旧志賀町地区でも小学校の統合が行なわれ、コミュニティバスを含めての運行計画にすべきではないのか。

答 旧富来町地区は、7校を1校にしたので遠距離となり、基本的にスクールバス通学となった。旧志賀町地区でも統合中学校が開校してから、小学校の再編整備をしなければならぬが、小学校の統合により遠距離となる可能性が高いため、教育活動を十分達成させ、経費的なものも考慮し、慎重に検討しなければならぬ。



「まえ玉」の試食をする子供たちと松田前富来町長

産業建設

「まえ玉」の販売 市場に根付くように指導を

問 個性ある生きがいの村づくり支援事業では、町が行っていた地域特産品づくり（まえ玉作り）を民間グループに販売を含めた業務を全面的に移行することであり、民間が育つようにする仕組みは大切といいますが

答 まえ玉作りは実験農場から民間グループ主体に移すものであり、商品化もでき売れているので、町がいつまでもやる時期ではないと思っっている。

道の駅や能登空港など販路もできているので、それを引き続きやってもらいたい。
また、作業場所の提供等に対しては協力して行きたい。

第2回（9月29日）

臨時会

第3回（11月8日）

第2回臨時会では、羽咋郡市広域圏組合規約の変更に伴う議案1件を、第3回臨時会では、デイサービスセンター建設工事請負契約など議案2件を審議し、いづれも全会一致で可決しました。

■第2回臨時会
◆羽咋郡市広域圏組合規約の変更
組合議会議員の定数を現行の23人から12人に削減するもの。

■第3回臨時会
◆デイサービスセンター建設工事請負契約
5億2千185万円、鹿島建設（株）

◆給与条例の改正
志賀町一般職の給与条例を国の人事院勧告に基づき一部改正するもの。



デイサービスセンター完成予想図（高浜町地内）

議員の一言コーナー

環境に配慮した政策を

気象庁の10月28日公表の異常気象レポートによると、日本で1日に200mm以上になる大雨の日数が過去30年で1.5倍に増えているという新聞報道を見ました。

今後、二酸化炭素など、温室効果ガスの排出量が増え続けた場合、地球温暖化や、それに伴う水蒸気増加などが原因で、台風や大洪水など、過去において経験のない大災害が起きる確率が高くなる

悪のシナリオです。人類は地球に生かされているのです。そのことを考え、当町でも環境に配慮した政策が必要だと思えます。

そして、一人ひとりが自覚を持って自然を大切にしなければならぬと思う今日この頃です。

（福田 英雄）

町政を問う！ いっぱん

9議員が登壇 質 問

<一般質問の会議録を全文公開>

志賀町ホームページ内の「議会情報コーナー」では、一般質問の「会議録」を全文公開しています。ぜひ、ご覧になってください。



森林振興を推し進めるべき

福田 英雄 議員

問 当町の総面積の約66%が山林であるが、木材価格の低迷と国等の補助金の削減で山林が荒れ放題になっている。
森林組合も国等の補助金をベースに山主への協力を依頼しても、なか

か前には進まないようである。

新町の重点事業の「潤いプロジェクト」で上げられている森林の保全事業の中に、森林の間伐事業を取り入れ、立派な森を造ってもらいたい。

現在、当町で間伐が必要な面積は、約2千㌫で、

毎年10㌫しかできず、これではあまりにも林業予算が少ない。

林業は、100年以上のスパンが必要で、我々が子孫のために残されるただ一つの財産だと思う。

町の将来のため、林業振興を強く推し進める方策をとられないのか。

多面的に林業振興策を打ち出していく

【答弁：細川町長】

答 町の林業施策は、林道開設・維持管理事業を行うと共に、松くい虫防除関係事業では、奨励防除事業による継続的な防除や薬剤の樹幹注入事業、被害対策事業では伐倒駆除を行っている。

造林事業ではこの3カ年間で、35㌫を緊急に間伐する必要があり、羽咋森林組合が事業主体で10%の高上げ補助を行っている。

また、羽咋森林組合及び石川県林業公社に森林整備地域活動支援交付金

を交付をして、森林整備の地域活動を積極的に推進し、林業の振興と森林保護の両面について施策を講じている。

しかし、林地の荒廃は加速されており、町も県中能登農林総合事務所や羽咋森林組合と連携協議をし、地域座談会などを通じて林地の荒廃防止策や公共事業への間伐材の利活用の奨励、地域特産化に向けた林産物の発掘など、多面的に林業振興策を打ち出して行きたい。

諸問題の解決能力を向上させるため、職員を自治大学に派遣させよ

富沢 軒康議員



問 職員は、創意工夫を凝らした企画立案や実行する能力を持たなければ地域間競争には勝てない。

来年、自治大学校で合

併した新自治体の職員を対象に、合併後の行財政に対する能力を身に付ける研修コースが設置されるが、何人かの職員をそこで研修させ、全国の市町村でどのような問題が提示され、また、今後どういう町づくりをしていくべきなのかを学びに行かせるべきであると思うがどうか。

合併して相乗効果は生まれるのか

問 原発や工業団地等を中心とする町の拡大を目標としてきた町と、観光資源をベースとして、観光立町を目指した町の合併であるが、両町が合併したことにより、どのような相乗効果が生まれてくるのか。

この多様化する住民ニーズに対応した政策実現のためにも職員研修が非常に重要である。そのため到来年度から石川県地方課、市町村アカデミー、自治大学校への派遣を含め、それぞれの職員に合ったきめ細かな研修計画を作成して積極的に対応していく予定である。

若者の定着に繋がると思う

【答弁：細川町長】

答 能登金剛などの観光地と志賀の郷リゾート開発とが結びついた観光施策の展開がさらに一段とまちづくりに繋がってくるものと思う。また、旧志賀町の電源立地や工業団地といったハード面と旧富来町の観光文化面がお互いに相乗効果を発揮して、そして若者定着に繋がっていくものと思う。

公共施設のアスベスト対策は

問 アスベストによる健康への不安が、日増しに広がり、県では公共施設の実態調査を進めているが、当町の公共施設等の調査はしているのか。

また、基準値を超過するアスベストが発見された場合の改善策と対応策はどのようにするのか。

状況に応じて除去工事等を講じる

【答弁：細川町長】

答 調査では、町所有建物の433棟の内39棟で吹付材が確認され、ほとんどがボイラー室であったが、ただ一カ所だけ、保育園の遊戯室での使用が確認された。

今後、今回の調査で把握した全ての吹付材を専門機関で成分分析し、アスベストの含有しているものは、状況に応じて封じ込め工事、除去工事等の対策を順次講じていく。

少子化問題とニート族をどのように考えるか

問 出生率1.28という数字が示すように、若い世代は、なげ子供をつくらなくなってしまうのか。

また、今およそ日本に約64万人いると言われるニート族(学校にも行かず、働く意思もない若者)に関してどのように思うか。

子育てに金がかからない施策と社会全体での取り組みが大切

【答弁：細川町長】

答 子育てに対する経済的な負担、若者の生活スタイルの変化が、少子化の要因とも言われるが、子育てに金のかからない施策を考えたい。

また、ニート族は日本社会に深刻な社会問題を引き起こしかねないといわれているが、社会全体で問題意識を持って取り組んでいかなければならないと思う。



石川県自治研修センターで行われる県や市町職員の研修の様様

それぞれの職員に合った研修計画を作成し、積極的に対応する

【答弁：細川町長】

答 人材育成や職員の資質の向上はこれからの自治体にとって大切な分野である。これからの地方自治体の職員は、地方分権時代の新たな政策課題に取り組み能力と資質が強く求められる。



非常用持出袋セットの一例

各家庭へ非常時の持出袋を配布できないか

南 政夫 議員



問 原子力発電所の立地町として、自然災害や予期せぬ災害に対し、これまで以上の防災強化を望む。

県内には、懐中電灯や乾パン、飲料水などが入った非常用持出袋を配布した市町もあるが、当町でも実施できないか。

答 現在、地域防災計画を策定中であるが、非常時持出袋は、自主避難しにくい地域があること、持出袋の中身を各世帯の家族構成に合わせる事が非常に難しい。

高齢者にとっては、袋の重量や大きさなどから負担も予測される。

中身の食糧、飲料水には有効期限があり、配布後の管理・補充にも困難を期すと考える。

世帯の応じたものを配布するのは難しい

【答弁：細川町長】

インターネット情報伝達のスピード化を

問 インターネットの情報伝達スピードが、電話回線の市内局番「32局・42局」管内では遅いが、その他の地区では非常に遅い。

この地域間の格差を早期に解消できないのか。

答 新町まちづくり計画の重点事業である「ケーブルテレビ網」の事業で、インターネット環境整備を積極的に取り組んでいきたい。

【答弁：木坂監理課長】

平成18年度に整備計画を策定し、19年度及び20年度で事業を実施し完了させ、高度情報の共有を図ることや地域間格差の是正に向けて努力していきたい。

石川県内の非常用持出袋配布状況

県内の状況を調査したところ、川北町と珠洲市で非常用持出袋を配布し、能美市では町会単位で防災用品を購入した場合、10万円を限度とした補助金制度があり、この制度には非常用持出袋も含まれるとのことでした。

内容は、川北町では平成7年度に全世帯を対象にして乾パン等を含め各種のセットを入れた袋を配布し、保存期限がある物は、町が購入して配布。

珠洲市では平成6年度に全世帯を対象として配布し、中身は小懐中電灯と救急医療セットのみでありました。



志賀原子力発電所の全景

原発のプルサーマル計画 受け入れの可否は

堂下 健一 議員



問 北陸電力は、プルサーマル計画を2010年までに実施することを表明している。
その実施にあたり、県と町に申入れすることは間違いないが、プルサーマル計画とは、使用済み

燃料から取り出された猛毒のプルトニウムを混ぜたウラン燃料を、一般の原発で使用するものあり、志賀原発はウラン燃料しか想定していない。
この計画は、資源の有効利用にならないこと、また、この計画によって放射性廃棄物が減らず、経済性もウラン燃料製造の3.2倍もかかることなどが報告されている。
危険性も指摘され、計画の受け入れは住民の生命・財産を第一に考え、判断すべきではないか。

町民の生命・財産を 第一に結論を出す

【答弁：細川町長】

答 今のところ、安全協定に基づく正式な申し入れはないが、その際は議会と相談しながら、町民の生命・財産を第一に考えて結論を出したい。

地域懇談会の開催要項と旧両町のサービス格差の是正を問う

問 地域懇談会の開催要項と旧富来町、旧志賀町の町民格差の是正については、町長の所信の中に「地区懇談会を開き、ひざを突き合わせて話し合い、地域の要望や不安を聞き住民の意思を大切にしながら町づくりを進めたい」とあるが、その予定と自身はどのように

考えているのか。
また、町民の融和と協調を前面に掲げているが、上下水道料金のように旧両町民の格差を5年、10年で調整しようとしているが、これでは住民の一体化は無理であり、来年度からでも格差の是正をすべきでないのか。

来年の5月頃より開催し、 町民の融和と一体化を全面に掲げ、 できるだけ早い機会に調整したい

【答弁：細川町長】

答 「新町まちづくり計画」をベースに「志賀町総合計画」を策定したと考えている。
来年の5月頃より地域懇談会を開き町民の意見を聞きたいと考えている。

町民の融和と一体化というのを前面に掲げているので、上下水道料金などはできるだけ早い機会に調整して一体化していきたいと考えている。

非核平和宣言の町として行動を

問 新町において、引き続き非核平和の町づくりを進めるのであれば、実現に向けて具体的な行動をすべきではないか。
また、全国には非核宣言自治体協議会を組織して活動している自治体もあるが、これに参加する意向はないか。

非核平和の町として 宣伝していきたい

【答弁：細川町長】

答 「広島、長崎を繰り返さない。核兵器の廃絶を」との趣旨に賛同して非核平和宣言をしており、新町においても、引き続き非核平和の町として宣伝していきたい。
非核自治体宣言協議会の参加は前向きに考えている。また、非核平和宣言の実現のための具体的な取り組みは、今後検討していきたい。



役場の総合窓口前に設置された「ご意見箱」

部門別の地域懇談会の開催や、目安箱を設置しての意見聴取ができないか

寺岡 真貴子 議員

問 計画されている町政懇談会の他に、一次産業、商工業、観光、若者定住、子育て等、テーマ別の懇談会設置や、目安箱の設置、町のホームページを利用した意見聴取の仕組みもあると良いと思うがどうか。



答 商工会、婦人会など、いろいろな形の中でテーマ別の懇談会も並行していきたい。
また、志賀町ホームページに意見コーナーを設けるなど内容を拡充充実させ、住民と意見交換が出来るよう配慮していきたい。
さらに職員が気軽に提案できる環境整備については、前向きに検討したい。

色んな形での懇談会の開催や、町ホームページに意見コーナーを設けるなど、住民との意見交換ができるようにしたい

【答弁：細川町長】

また、町職員の意欲向上のためにも、職員個々の意見が反映されるような提案制度があると良いと考えるがどうか。

CATV網の整備開始とサービス開始時期は

問 新町の一体感の醸成のためにも、情報共有の手段をいち早く整備すべきと考える。
CATV（同軸ケーブル）や光ファイバーケーブルなどを使ったテレビ放送）網の整備の早期着手を願うが、事業の開始時期はいつになるのか。

また、初期費用の大幅な軽減するなどして、全戸に接続を目指し、防災上の活用などさらなるソフト事業の充実をはかるべきと思うが、その考えを問う。

平成19年度に事業着手、20年度にはサービスを開始したい

【答弁：細川町長】

答 今年度は、住民アンケートの実施、先進地事例の調査、ソフト事業の研究にあて基本方針を検討する。
来年度にはCATV網の整備計画を策定し、19年度に事業着手、20年

度には供用を開始したい。
全戸接続を目指すかどうかは、来年度の計画策定までに検討したい。
また、防災上の利活用は積極的に考えている。

事務事業の効率性を高められないか

問 合併した効果を十分発揮すべく、各課の事務事業の効率性、合理性を高めていく仕組みづくりが必要だと思うが、町長の見解を問う。

効率的な事務事業の見直しを積極的に行う

【答弁：細川町長】

答 行財政のスリム化を目指した効率的な手法の検討が必要で、今後策定予定の行財政改革のなかで、事務・事業の再編・整理、廃止・統合を重要な課題として位置づけ、より一層効率的な事務事業の見直しに積極的に努めたい。



10月29日、文化ホールに行われた高浜高校創立40周年記念式典
(中央両サイドの2人は、アテネオリンピックのレスリング競技
金・銀メダリストの伊調千春、馨の姉妹)



北信越大会の準決勝(6月19日・福井県内)で
奮闘をする富来高校のホッケー部員たち

高校の存続に対し、 どのような考えでいるのか

木村 正男 議員



問 平成19年度には、
県立高校再編再編成が提
示されると聞いているが、
当町には、2校の高校が
あるが、今後、その2校
とも存続を働きかける
のか、又は、どちらか
1校に絞り込みをして存
続を図ろうとするのか。

両校で自助努力をし、町でも
存続に向け鋭意努力をしたい

【答弁：青山教育長】

答 石川県では少子化
の影響により定員割れす
る高校が増えているため、
20年度から高校の統廃合
を段階的に進めることと
している。
当町の2校とも輝かし
い歴史と伝統を持ち、特
色ある学校づくりに励ん
でいるが、少子化と生徒
の進路選択の拡大等によ
り、近年両校ともに定員
割れが続いており、今後
の町内中学卒業生の推移
を見ても生徒数の確保が
厳しい状況である。
両校は、それぞれの振
興会を中心に関係者の支
援を得ながら、活力ある
学校づくりに取組んでい
る。
新町としての活力の維
持、身近な地域の中で
高校選択肢の確保や中等
教育の重要性に鑑み、ま
ず、両校での自助努力に
より、互いに切磋琢磨し
ながら町内外の生徒にと
つて魅力ある学校づくり
をより一層推進し、町も
高校の存続に向けて、鋭
意努力していきたい。

合併特例債はどの
地域を重点的に配
分するのか

問 新町まちづくり計
画に、夢・未来の創造、
笑顔あふれる能登ふれあ
いの郷を基本方針とし、
高齢者福祉施設、地域幹
線道路、防災拠点施設、
学校施設、ケーブルテレ
ビの整備等の事業がある
が、これらを整備する特
例債をどの地域に重点的
に配分する考えか。

旧富来地区には過疎
債を、旧志賀地区に
は特例債を多く配分

【答弁：細川町長】

答 旧富来地区は過疎
債という新町まちづくり
計画に優先して充当され
るものがあり、特例債は
旧志賀地区の方に少し多
く配分したが、来年度以
降は、合併特例債の充当
を予定しているケーブル
テレビ網の整備に着手し、
過疎対策事業債と併せて
幅広い分野で有効利用を
図っていく。

マンガ大学設立へ
の現状は

問 一部の報道もされ
たが、松田前富来町長が
旧西海小学校周辺に構想
したマンガ大学設立案の
現状を確認したい。

この一大プロジェクト
計画をどのような話し合
いの中で継承されてきて
いるのか。

学校概念や規模が
固まりつつある段階
と聞いている

【答弁：細川町長】

答 旧富来町の時から
検討、協議している事柄
であり、魅力あるユニ
ークな学校誘致ができて
いるかの検討は、私も同感で
ある。
合併を機に前富来町長
に関わりと相談をしてい
るが、現段階では、大学
出版社、コンサルタント
の意見を聞きながら、学
校の概念や規模が固まり
つつある段階だと聞いて
おり、それ以上の進捗は
ない。



志賀町ホームページのトップ画面

新町まちづくり計画の進捗状況等を公開せよ

萬上 俊之 議員



問 新町まちづくり計画の推進に対する決意と具現化策をどう考えているか。

また、計画のフォローアップのしくみとして、プロジェクトチームを組織し、計画推進を特別な

位置づけとして取り組んではどうか。

さらに、プロジェクトリーダーであるべき管理職や執行部が進捗度合をチェック出来る「しくみ」を構築するよう提案したい。そして、町民の「満足度を量るしくみ」を作ってはどうか。

町が行う主要施策や重点事業は、住民福祉の向上という目的を達成して

いくための手段である。その期待される効果を指標化しておき、その達成度から町民の満足度を量るといったものいいのではないかと思う。

最後に「広報しか」や町ホームページなどを活用して、施策の進捗や満足度の推移がいつでも覗けるように、情報公開するしくみを構築すべきと思うがどうか。

「広報しか」や町ホームページを活用し、情報公開をしていく

【答弁：細川町長】

答 新町まちづくり計画策定以前に毎年実施していた市町村事業計画の取りまとめによりフォローアップしていきたいと考えており、プロジェクトチームを組織することとは、現在は考えていない。

また、新町まちづくり計画の進捗状況等の公開は、提案のとおり毎年の市町村計画でフォローアップし、新総合計画策定後に、「広報しか」や町ホームページを活用し情報公開していきたい。

町民の満足度を量る仕組みは、提案の手法により示すことが望ましいと思うが、なかなか町民の満足度を事業効果に起因



職員に智恵を出させ、優れたアイデアには報奨を与えてもいいのでは

橘 照茂議員

問 新町職員は400人を超え、約50人もの課長級職員がいるが、職員の削減計画も定年を待つて削減し、新規採用者を抑制というだけでなく、肝心

役場の朝礼（その日の行事報告と併せ、職員に仕事の機を飛ばす管理職ら）

なことは行政のスペシャリストにどれだけ知恵を出させ、改革の第一線に立つてもらうかである。

地方分権時代を迎え、職員をはじめ住民ともども少子化時代の支援策、地域の活性化対策も含めた様々な知恵を出し合い、みんなで考え行う地方自治に徹し、優れたアイデア

ア提案者には報奨を与えることも考えてもいいのではないか。

また、少なくとも毎年全職員が2つ以上の振興策や改善策を自ら創案し、町の活性化、そして職場内の活性化を図ることは時代に即応した大きな課題だと思いがその考えを聞きたい。

優れた提案者には特別昇給の対象者に取り上げたい

【答弁：細川町長】

答 職員の提案制度は今のところないが、職員一人ひとりが新町の新たな飛躍に向け、制度の抜本的な見直し、町づくりに向けた建設的な提言提案ができる環境を整えていくことは必要と考えている。

これからの政策課題に対応できる職員養成も重要なことであり、職員研修を含め職員能力の向上に向けて、積極的に取り

組みたいと考えている。

また、旧志賀町では毎年1月に職員全てから自己申告書を提出させており、その中で、職務上の問題点、意見、提案を自由に記載させている。

今後、そのうち優れた提案で町に貢献した職員については、特別昇給の対象者に取り上げることなども検討していきたい。

独居老人宅の生きがいと安全対策、空家の利用や防犯対策を強化すべき

問 当町の高齢化比率は毎年急激に増加しているのが現状であり、高齢者の老後の生きがいづくりと、特に独居老人宅の安全対策を強化する必要があると思うがどうか。

また、すでに子孫が都会へ出るなりして、空き家になつている家屋も少なくないが、家屋の防犯

対策を含めての提案だが、町がその家屋の所有者や管理者とタイアップし、必要なリフォームも行い、住宅を求める若者等への提供もできないものか。

そうすれば田舎暮らしを希望する都会の方にも幅広くアピールができるのではないかと。

居宅を訪問しての安否の確認と、高齢者施設を通じての生きがいづくりを行い、併せて空家を活用する対策等は検討していく

【答弁：細川町長】

答 独居老人宅の安全対策は、急病等の緊急時に適切に対応するため、緊急通報装置の設置や、協力員の訪問、配食サービスの実施等により安否確認を行っている。

高齢者の生きがいづくり活動は、地域福祉施設等を拠点として、活発に実施している。

防犯対策は、他人の財産を活用するという点でもあり、家屋を提供する者がいるかどうか、まずその方向から調査する必要がある。

今後の空家の活用対策は、先進地の事例等を参考にしながら検討を行いたい。



ケーブルテレビ網の素案を検討する監理課のスタッフ

情報発信のあり方とそのための研究会を発足してはどうか

下池 外巳造 議員



問 新町まちづくり計画の中にケーブルテレビが取り上げられているが、今後の地域活性化には放送の難視対策とインフラ整備を同時に実現できる大切な事業と感じている。

この事業化をどのように考えているのか。
また、新しい町づくりに対応した住民サービスを提言するための研究会を作ればと考える。
例えば、準備委員会の創立や、商工会も含めた第三セクターなどによるケーブルテレビ運営の仕方など、お互いに検討するための機会を設ければいいと思うがどうか。

住民の意向を把握し、組織の設立も検討したい

【答弁：細川町長】

答 ケーブルテレビ事業は大きな期待を寄せる新町の最重要事業と認識している。
そのため、準備委員会及び研究会の発足については、来年度のケーブルテレビ整備計画策定の段階で、町民から、幅広く意見を聞くため、必要な

組織と考えている。
ケーブルテレビ設置後の運営方法や提供するサービスについても、同様に町民の意向を的確に把握する必要があると認識しており、組織設立に向けて、検討していきたい。

新しい議会広報委員です

— 親しまれる議会広報を目指し —

議会広報委員会のメンバーが新町発足により、新しい顔ぶれとなりました。

議会では合併協議会の協定項目に則り、19年5月まで在任特例を採用し、それまで広報委員会はこの7人がメンバーとなります。

開かれた議会を目指し、この「議会だより」は今後、町民の声を反映する誌面にしたいと考えています。

「議会だより」や議会に対する皆さんのご意見、ご感想をお寄せいただきますようお願い致します。



左から堂下委員、松島委員、寺岡委員長、南副委員長、富沢委員、下池委員、橋委員

行政委員を同意

第1回定例会の最終日（10月21日）の追加議案に次の行政委員（教育委員、監査委員、固定資産評価審査委員）の同意案件が提出され、いずれも全会一致で同意しました。

教育委員

教育分野に卓越した見識と優れた手腕を有し、教育委員に最適とし、次の5名を同意。



小谷 貢氏（鹿頭）



山口繁樹氏（富来地頭町）



青山源隆氏（高浜町）



野崎豊昭氏（代田）



穴田 實氏（牛ヶ首）

監査委員

行政及び財政事務に豊富な経験と卓越した見識を有し、学識経験者の委員に岡部氏を、議会選出の委員に木村氏を同意。



木村正男氏（里本江）



岡部 修氏（高浜町）

固定資産評価 審査委員

税務に豊富な経験と卓越した見識を有し、固定資産評価審査委員に最適とし、次の3名を同意。



細川富士雄氏（福野）



岡部 健氏（高浜町）



濱野美能留氏（富来領家町）

広域圏議会議員を選挙

第1回定例会の中日（10月14日）に羽咋郡市広域圏議会議員の選挙をしました。

これは第2回臨時会（9月29日）での同組合の規約変更に伴い、当町からは4名の議員が広域圏議員となるもので、選挙は投票で行いました。

投票では、投票数の多かった議員のうち、上位4名を当選者とするもので、次の4名が当選しました。



辻 武美 議員



大根 明 議員



吉島陸男 議員



久木拓栄 議員

第17回富来を描く美術展「富来大賞の作者」に聞く!



作品名「慈雨 (西海)」



坪野まり子さん(金沢市)

ここ数年、富来展が私の一年の締めくくりでした。写生を思い立ったのは、朝晴れていた空がやさしい雨となった日曜の午後でした。大賞を励みとし来年も描こうと思います。

芸術文化の振興を願い、旧富来町では美しい能登金剛の自然をはじめ、町の生活、産業そして、夢などを描いていただく公募展を平成元年から毎年開催しています。今年、次の方が富来大賞に選ばれたので、作者の感想を交え、ご紹介させていただきます。



旧熊野小学校の染工場の現状を聞く

当日は、2台のマイクロバスにそれぞれ旧町単位でバスに乗り込み、旧富来町議員は、県水産総合センター(赤住地内)を皮切りに、アクアパーク・シ・オンや地域休養施設「やすらぎ荘」(福井地内)、石川北部RDFセンター(矢駄地内)、シルバーハウス(代田地内)などの施設を視察しました。



県水産総合センター現状を確認



とき実験農場(香能地内)の現状を確認

新町は9月1日に合併しましたが、互いの旧町の概要特に公共施設)を勉強するため、10月24日に町内巡回視察研修を行いました。

議員の町内巡回視察研修を実施

また、旧志賀町議員は、旧熊野小学校の染工房を皮切りに屋内スイミング施設「フレア」、



石川北部 RDF センターで施設の説明を聞く



世界一長いベンチと増穂浦海岸

地域福祉センター、とき実験農場(香能地内)などの施設を視察しました。互いのバスでは、車窓から学校や公民館等の公共施設、町有地の現状の説明を受け、今後の町の諸問題に対応するための勉強をしました。